

新市立病院整備に係る市民説明会のご意見・質問概要

会場：箕面市立病院　講義室 1

令和6年5月17日（金）午後6時開催

※ホームページでの公表に際し、当日の発言のままだはなく表現や内容を整理・精査しています。ご了承ください。

No.	ご意見・質問内容	回答内容
1	新病院で回復期リハビリテーションが廃止されることについては非常に残念である。急性期のベッドサイドでのリハビリが実施されることだが、入院期間は短くなると思う。回復期のリハビリを他の民間病院で行うなら、安心して転院できるのか、きちんと回復できるのか不安である。	回復期リハビリテーションについては、民間病院からの強い反対があったため継続することができなくなりましたが、それらの病院からは、今後当院からの転院患者もしっかりと受け入れ対応すると言っているので、転院後も安心してリハビリを受けていただけると考えています。
2	病室の広さはどのくらいなのか。ベッドサイドでリハビリテーションも実施するとのことだが、可能な広さなのか疑問である。	病室については、有料個室で18㎡以上、無料個室でも13㎡以上を確保する予定です。現市立病院の個室は10㎡程度なので、新病院では無料個室であっても現状より広くなります。この広さであれば、ベッドサイドのリハビリテーションにも十分対応可能です。また、各病棟にはリハビリテーションエリアを設置しますので、そちらを活用したりハビリも可能です。
3	資料に新病院のイメージパースがあるが、新病院の予定地でこういった形状で建てるのは可能なのか。建物の高さはどのくらいの予定なのか。	資料のイラストはあくまでもイメージであり、実際とは異なります。具体的な施設形状については、今後設計施工者からの提案を受けて設計を進めていきます。一般的な条件で考えれば、建物は8階～10階建て程度になると想定しています。新病院の建設予定地は傾斜地ですが、高低差を活かした施設配置計画にしたいと考えています。
4	3月に策定された基本計画では病床稼働率が90％と記載されていた。現市立病院の病床稼働率と比較するとかなり高いと思うが、どのような想定なのか。	新型コロナウイルス感染症の影響で病棟の一部を閉鎖していたこともあり、現市立病院の稼働率は60％～70％程度で推移していますが、コロナ禍前（令和元年度）の稼働率は86.2％でした。新市立病院整備後は、全室個室化により病室の有効活用が図られるため、稼働率90％は十分現実的な数値であると考えています。
5	令和7年度からの指定管理開始時と、新病院で390床になったときと、それぞれ医療スタッフ数はどうなる想定か。分娩数は現状では年間100件程度で、新病院では400～600件程度が目標とのことだが、対応できるスタッフを確保できるのか。	指定管理開始時、新病院での増床時でも滞りなく医療を提供できるようスタッフの確保に努めていきます。看護師の確保が非常に厳しい状況になっており、全国的にも、近隣でも、病棟閉鎖や入院制限をせざるを得ない事例も出ています。市立病院の開設者である市としても、指定管理者である協和会としても、様々な方策で人材確保に努めていきます。
6	回復期リハビリテーションについて、地域の医療機関からの反対があったため断念したとのことだが、現市立病院で回復期リハビリテーションを実施していることに対して反対はなかったのか。	箕面市立病院では回復期リハビリテーションを平成8年に開始しましたが、当時はこの地域に回復期リハビリテーション病床はほとんどなく、当院が先駆的な役割を担ってきたため、当時は特に反対はありませんでした。その後、国として、病院間の機能分化・役割分担を進めるべきとの方針が出されたことで、今回の新市立病院の整備に対し、「公立病院は急性期を中心に担う基幹病院としての役割を担い、回復期や慢性期については民間病院としっかり連携をとるべき」という観点で強い反対意見が出されました。なお、同じ観点から、回復期病床を持つ近隣自治体の公立病院に対しても反対意見が出たり、これまで運営してきた回復期病床を廃止した公立病院もあります。
7	新市立病院は阪急電鉄沿線に居住している市民にとっては、現状よりも遠くなる。通院のための交通手段は十分確保されるのか不安である。	新市立病院の整備に向けてオレンジゆずるバスの経路も見直される予定です。現市立病院ではオレンジゆずるバスが敷地内まで入っていますが、新市立病院でも同様の運用になるよう、今後調整を行います。車で来院されるかたについても、敷地内の駐車場に止めていただけるように、十分な駐車台数を確保する予定です。
8	今年度新たに総長が就任されたと聞いたが、どのような役割をされているのか。	令和6年4月に関本総長が就任しました。病院事業管理者とともに、病院全体の運営・経営の総責任者としての役割を担っています。
9	分娩について、基本構想時から考え方が変わっている。市立病院開院時に産科の開業医の経営が大変だという話を聞いていたが、今後公立病院が担っていくことでよいのか。	現在、箕面市内の出生者数は毎年1,000人程度であるのに対し、市立病院での分娩取扱い件数は100件程度であるため、箕面市民の分娩の多くは、民間病院が担っている状況です。分娩はこれまでは自費診療でしたが、今後、保険診療になることが見込まれている中で、市内の産科クリニックからは、公立病院としてもしっかりと分娩を担ってほしいとのご意見をいただいています。

※ホームページでの公表に際し、当日の発言のままでなく表現や内容を整理・精査しています。ご了承ください。

No.	ご意見・質問内容	回答内容
10	マイナンバーカードの健康保険証利用率は全国で5パーセント程度のようなのだが、箕面市ではどうか。	市民のマイナンバーカードの健康保険証利用率について、市立病院では把握できませんが、制度が開始された当初から、市立病院でも対応しています。
11	指定管理に移行するにあたり、個人情報の保護・管理は適正に行われるのか。	患者情報は病院の運営上必要であるため指定管理者も取り扱うこととなりますが、当然、病院運営に必要な範囲を超えて使用することはありません。個人情報の管理や、情報漏洩の防止等の措置については市のルールに準じて行うよう、指定管理の協定書に規定しています。
12	全室個室について、患者の立場から入院する際に個室ではないほうが良いという意見も聞いたことがある。また、夜間の見回りやポータブルトイレの回収といった業務効率の面からデメリットもあるのではないかな。	全室個室化に伴って業務上の手間が増えることも想定しなければなりません。それ以上に患者さんの療養環境の向上や感染症対策等のメリットが大きいと判断しています。看護師の負担軽減については、指定管理者とも協力しながら進めていきます。
13	300床未満では医師の確保が難しいとこれまで説明を聞いてきたが、本当にそうか。例えば離島の病院では病床数、診療科が少なくとも診療を行っている医師もいる。	医師不足や医師の偏在は全国的な問題で、特に離島のような医療へき地では、医師のなり手不足が深刻であると認識しています。大阪のような都市部でも、決して医師不足と無縁ではなく、現在進められている働き方改革の取り組みにより一定規模以上の病院に医師を集約せざるを得ない状況になっています。病院の規模や医療需要に見合った診療科を有している方が、大学からの医師派遣、医師確保の可能性はより高くなると考えています。
14	救急について、当直医の専門以外の疾患の患者が救急搬送された場合はどうなるのか。	救急の受入れについては、あらかじめどういった患者の受入れが可能かを大阪府のシステムに登録しています。そのため、市立病院に受入れ要請があったということは、システム上は対応可能だという判断がされている状態です。その上でお断りしないといけない状況というのは、例えば、当直の医師が処置中で受入れできない場合や、専門の医師でなければ処置が困難である場合などが挙げられ、その場合は他に対応可能な病院へ搬送されることになります。
15	医師、医療職不足の問題解決として、医療拠点を集約していく必要があると思うが、再編統合だけでなく連携強化をするべき。医療法も変化している。国も再編統合だけではなく、地域との連携強化を推進するような動きもある。根本的に医療をどう考えていくのか、公立病院の本来の姿がどうあるべきかを常に問いかけながら、府や国に対して市のスタンスを伝えるべきではないかな。	諸外国と比較し、日本は人口あたりの病床数が過剰であるとされています。医療費や社会保障費の抑制のためのひとつの方策が、病床数の適正化であり、病院の再編統合であると認識しています。公立病院は、地域の基幹病院として急性期医療をしっかりと担い、回復期や慢性期医療については、他の病院とうまく連携して取り組んでいくというのが、まさに連携強化であり、その考え方に沿って市として検討を進めてきたものです。
16	優秀な医師が確保できると説明があったが、どういう意味か。患者にとっては親切的な医者が望まれる。	十分な病床を確保することで、様々な症例の診療ができるようになります。そうなれば大学からも積極的に医師を派遣いただくことが見込まれますし、そのような充実した環境に魅力を感じ、高度な知識・技術を持つ医師が集まれば、より安心な医療が提供できると考えています。
17	指定管理者評価委員会について、評価委員会から答申を受けるという形だが、新病院でのトラブル等に対して市民から直接意見できる体制にはならないかな。	評価委員会では、指定管理者が行う患者アンケート等の結果について報告を受けることになっています。具体的な方法等は今後検討していきます。市議会でも、市民の意見等から指定管理者の評価を行うスキームを検討していると聞いています。
18	以前、特別委員会で議員から北側の箕面山の眺望を活かして欲しいと意見があったはずだが、イメージパースでは建物が東西を向いている。北側の山の眺望を活かした計画にして欲しい。	資料に掲載している新市立病院のパースはあくまでもイメージで実際とは異なります。今後、設計施工者を決定し、設計を進めていく中で建物の配置や向き、形状等を決めていきます。
19	看護師を3交代から2交代制にするという話があるが、働き方改革についてはどのように考えているか。	現在は一部の病棟のみが3交代制になっており、2交代制が基本になっています。
20	民間病院の回復期リハビリテーションについて、経済的に厳しい患者でも受け入れてもらえる病院は多いのか。リハビリテーションを実施するホテルのような民間病院があり、経済的にゆとりがないと行けないイメージがある。	患者さんの状態に応じて日常の消耗品の費用が変わる場合がありますが、提供される医療の内容が同じであれば、公立病院でも民間病院でも診療報酬は変わりません。

※ホームページでの公表に際し、当日の発言のままでなく表現や内容を整理・精査しています。ご了承ください。

No.	ご意見・質問内容	回答内容
21	全国的に医師は不足しているが、病床としては過剰になっていると説明があった。医療圏全体で病床数を減らすことにより、災害や感染症が発生した際に断られるようなことはないようにして欲しい。	（ご意見）
22	市民説明会は、議会で議決される前に実施するべきだと思う。	（ご意見）
23	協和会が運営している別の病院を利用した際、新しい病院にしてはトイレが非常に狭かった。新市立病院では介助者も入れる程度の余裕を持った広さのトイレを整備して欲しい。	（ご意見）
24	新御堂筋線や北大阪急行電鉄にも沿っている敷地条件で騒音対策はどうするのか。	建物の配置の工夫や、遮音性の高いサッシを採用するなど、騒音対策に十分配慮することを設計要件に盛り込んでいます。近隣では吹田市の市民病院や、済生会吹田病院も鉄道に近接していますが、見学した際に鉄道の騒音が気になることはありませんでした。